

(条例) 様式第2 (第9条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

2024年11月7日

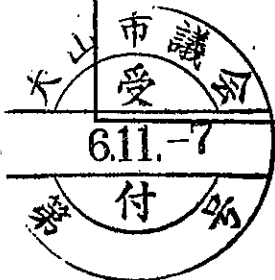
犬山市議会

議長 柴田浩行 様

議員名 岡村千里

下記のとおり、^{第19回全国市議会}~~議長会研究会~~の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	2024年 10 月 9 日(水) ~ 2024年 10 月 10 日(木) (泊 2 日)
(2) 場 所	トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)
(3) 形 態	会派 (日本共産党 犬山市議団) : その他 ()
(4) 内 容	1. 「地方議会の課題と主権者教育」パネルディスカッション パネリストは、土山希美枝氏(法政大学法学部教授)・越智大貴氏 (一般社団法人WONDER EDUCATION代表理事)・渡辺嘉久氏 (読売新聞教育ネットワーク事務局)・遠藤政幸氏(盛岡市議会議員) の4名。それぞれ立場から発言された。 土山氏は、誰がための「高校生議会」か、と主権者教育の主体は、学校・ 教育機関であることと強調され驚いた。しかし、若手市民の市民参加、 を議会に得る機会としては重要とのこと。 越智氏は、13年間若者、子どもたちとワークショップを行い、子どもたちの政治 意識の醸成に努めてこられた。 渡辺氏は、18年の取材から、若者と関わりようになった。政治意識のアンケートと 実施。政治とつながる、とは、「自分の未来を創造する」こと。 遠藤氏は、盛岡市議会の高校生議会(429年7月)回り市議会から大学に 出かけ、意見交換を行う事業等、発表された。
(5) 成果・提言	1. 地方議会の主権者教育とは? が問われている。犬山市の様々な チャンネルを設けて、市民の意見交換を継続していくことが大 切だと感じた。 2. 様々な年代の人たち(とりわけ子どもたち)が、持ちつくり 参加することから、意識を高め、いくことにつながる。という 機会をつくっていく。



(条例) 様式第2 (第9条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

2024 年 11 月 7 日

犬 山 市 議 会

議 長 柴 田 浩 行 様

議員名 岡村千里

第19回全国市議会

下記のとおり、議長会研究フォーラムの成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	2024年 10 月 9 日(水) ~ 2024年 10 月 10 日(木) (/ 泊 2 日)
(2) 場 所	トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)
(3) 形 態	会派(日本共産党 犬山市議団): その他()
(4) 内 容	2. 「主権者教育の取組報告」課題討議 事例報告者は、白鳥敏明氏(伊那市議会): 高校生の議会傍聴と意見交換会、諸岡寛氏(四日市市議会): 「ワイ! ワイ! GIKAI」高校生議会、服部香代氏(山鹿市議会) シチズンシップ教室 伊那市では、R4年から市内の全高校を訪問し、議会傍聴、意見交換会の実施を依頼。意見交換会では、生徒2~3人、議員3~4人でテーマ別に懇談 四日市市の「ワイ! ワイ! GIKAI」は、R4年度は各常任委員会から地域の高校や大学に出向いてテーマをわけて意見交換会。 山鹿市では、小学校でシチズン教室(小学校へ出向いて講座) 教育委員会などにコンセンサスとり、どの議員も同じ内容を覚えるようにした。給本「ホリホリ村のみんなのしあわせ」を活用し、選挙を体験できるようにした。
(5) 成果・提言	1. 主権者教育は、知識の享受になりがちだが、基本的 にシチズンシップ教育であるべき。「教えてやろ」のではない。 2. 全国的に、中学校、高校に出向いて、議会に来てもらった りして、交流を図っている。教育委員会などのコンセンサスが必要。 3. 多様な市民、各年齢層の方々とテーマを決めて意見交換 を行っていた。